

2025

M3 カリキュラム

医療概論III

シラバス・コースガイド

2025 年 7 月～2026 年 1 月

2023 年度入学	第 50 回生用
2024 年編入学	編入学 24 回生用

M3 医療概論Ⅲ－１ シラバス・コースガイド

Coordinator: 前野 哲博, 堀内明由美, 前野貴美

1. コースの概要

医療概論Ⅲは以下から構成される。

- 1) 医療概論Ⅲ－１ 行動科学・行動医療学/地域ヘルスプロモーション(7月7日～17日、秋学期期間：集中)
- 2) 医療概論Ⅲ－２ ケア・コロキウム(12月8日～12日)

- 1) 医療概論Ⅲ－１に含まれる地域ヘルスプロモーションは、7月の演習期間に健康教育の基本的事項を学びながら、地域における健康教育の企画準備を行い、9月以降に地域健康教育実習として茨城県内の地域で実際に住民を対象に健康教育を行う。**詳細は地域ヘルスプロモーション実習書：コースガイド補冊を参照。**
- 2) ケア・コロキウムは、医学群と東京理科大学薬学部合同の職種間連携教育をねらいとした1週間のプログラムである。

本ガイドの3～7については、1) 医療概論Ⅲ－１の行動科学・行動医療学について記載する。

2) ケア・コロキウムの詳細は、同プログラムの実施にあわせて配布するコースガイドを参照。

2. 筑波大学卒業時コンピテンシーとの関連

・プロフェッショナリズム

豊かな人間性をもって、患者とその家族に対し思いやりと敬意を示すことができる。(レベル1)
多様な個や集団の価値観を尊重し、自身の想像力の限界を認識した上で他者を理解することの意義を説明できる。(レベル2)

・コミュニケーション

患者および家族に共感、敬意、思いやりをもって接することができる。模擬患者との面接において、心理社会的背景を考慮し、コミュニケーション技法を活用したコミュニケーションをとることができる。模擬患者に対し、病状をわかりやすく説明した上で、相手の意向を尊重したコミュニケーションができる。(レベル2)
グループ学習において、他職種など立場の異なるグループメンバーを尊重したコミュニケーションをとることができる。保健、医療、福祉の現場でケアに関わる各職種の視点や役割の違いを理解できる。(レベル2)

・診療の実践

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を様々な疾患と病態の理解に応用できる。(レベル2)

・医療の社会性

実際の現場で、集団レベルの視点から問題点を抽出し、科学的に分析し、問題解決に取り組むことができる。(レベル3)

実際の現場で、地域のニーズを意識し、地域の特性を活用するよう意識して行動できる。(レベル3)

指導の下で個人・集団を対象とした予防活動を一部実践できる。(レベル3)

・未来開拓力

国内外の文献や書籍を検索し、適切な情報を入手することができる。社会における多様性を認識し、受け入れる姿勢を示すことができる。(レベル2)

困難な状況において既存概念にとらわれることなく、諦めずに粘り強く解決にあたることができる。(レベル3)

場に応じて、自分の考えを相手にわかりやすく、適切にプレゼンテーションができる。(レベル3)

場に応じて教育を実践し、自らの学びを深めることができる。(レベル3)

チーム活動の場において、メンバーと協働し、目標の達成に向けてリーダーシップを発揮できる。(レベル3)

3. 医療概論Ⅲ－1 行動科学・行動医療学の到達目標(コースにおいて学んで欲しいこと)

- ・Prochaska の行動変容のステージを列挙し、個々のステージの特徴を説明できる。
- ・人々の健康の維持・向上に必要なセルフケアに必要な「ヘルスリテラシー」の意義を理解して、その普及にむけて医療者の果たす役割を述べることができる。
- ・一人一人の多様な価値観を尊重し、ライフステージを踏まえ各段階に必要なセルフケア支援の計画を立案し、医学生として参加することができる。
- ・地域住民の健康の維持・増進に効果的な働きかけを行うために、健康行動理論に基づく健康教育の立案実施、支援に関わることができる。
- ・現代の健康格差社会の実態とそれを取りまく健康の社会的な決定要因(SDH: Social Determinants of Health)の意義を説明できる。
- ・社会における多様性(性の多様性など)を認識し、個や集団の価値観を尊重し、無意識のバイアスの存在を自覚した上で、自身の想像力の限界を認識した上で他者を理解することの重要性を理解する。
- ・将来医師としてキャリアを重ねる時に必要なセルフケアを行うと同時に、ワークライフバランスをとることの大切さに気づき、そのあり方の多様性をイメージできる。

4. 学習の進め方

行動科学・行動医療学に関する講義と、セルフケア支援演習(夏休み課題を含む)から構成される。講義では課題実践のための基礎知識を修得する。セルフケア支援演習1, 2では、課題実践のための具体的な計画と実践するためのブラッシュアップを行う。

課題 身近な人へのセルフケア支援の立案と実践

身近な人(家族、友人など)が健康の維持・増進を行うためのセルフケア支援計画を立て、実際に指導を行う。

7月7日2時限 医療概論Ⅲオリエンテーション(参加必須)

コースの概要およびセルフケア支援の課題を説明する。行動科学と行動変容、ヘルスリテラシーなどのコース内の講義を参考にして、manaba からセルフケア支援計画書(ワークシート)フォーマットをダウンロードして作成する。提出締め切り: 7月9日17時。

7月10日、11日2時限 セルフケア支援演習1, 2(参加必須)

演習1ではセルフケア支援に関する(総合診療・家庭医療的なアプローチ、演習2では文化人類学的アプローチについて説明・討論を行う。演習後にセルフケア支援計画書(ワークシート)のブラッシュアップを行い、改訂した計画書を、manaba に提出する。(締め切り: 7月18日)

ワークシートを提出後、夏休み期間を用いて各自で身近な人へのセルフケア支援を実践し、課題2レポートを作成する。

課題レポートは、下記の構成で記すこと。(フォーマットをダウンロードして使用する)

タイトル(テーマ)

1) 対象者について

(あなたとの関係、年齢・ライフステージ、どんな生活をしてきたか/しているか、人生における価値観など)

2) 対象者の健康に影響を与えてきた/与えているだろう要因

対象者が生きてきた環境や、ライフスタイルや健康の社会的決定要因などの観点から情報収集して考察する

3) セルフケア支援の目的(誰を対象に何をゴールとして支援を行うか、その目的が対象者にとってどのような意味をもつか)

*留意事項 対象者の健康に影響を与えるテーマについてゴール設定すること。

(NG例 遅刻が多い友人に対する遅刻しないようにするための行動変容)

4) 支援の方法

- ・準備(対象者の価値観、関心事についての情報収集、行動変容のステージの分析など)
- ・上記にあわせたセルフケア支援の方法

- ・対象者とのコミュニケーションの工夫
- ・効果の測定法（短期、長期）
- 5) 実践結果
- 6) 考察
- 7) 参考文献

＊基本的に一ヶ月以上の取り組み・フォローの成果を記載してください。数日間の取り組みの効果についての記載の場合、後日再度セルフケア支援を実施した上での再提出になります。

＊講義で学んだことに加え、設定したテーマについて、自分で調べたことを実践に取り入れること。

4)の実践結果がもともと目標としていたことに到達・成功したか否かだけでなく、（うまくいってもいなくても）一連のプロセスをふりかえり、うまくいった点と理由/よりよい成果をだすための具体的な改善点を記すことを、課題のねらいとしている。

提出 manaba M3_医療概論III 9月15日まで

この他に、地域ヘルスプロモーションについて、別途実習書：コースガイド補冊を参照のこと

5. 他の授業科目との関連

・M2 医療概論Ⅱ行動科学入門で、心と行動のメカニズム、家族のライフサイクル、セルフケアについて学びました。本コースでは更に、他者へのセルフケア支援を行う上で必要な理論を学び、健康教育の実践を学びます。

・M5 総合診療科 CC/医療概論Ⅴにおいて、茨城県内の地域の医療機関において4週間の実習を行い、その中で地域における健康教育を実践する他、住民の多様な価値観や健康の社会的決定要因について現場の中で学びます。

6. リソースパーソン

自習やグループ学習で疑問が解決しない時など、積極的に活用して下さい。

教員名

<行動科学・行動医療学>

市川 政雄（国際社会医学分野 教授）
 吉本 尚（総合診療科、地域総合診療医学 准教授）
 堀内 明由美（総合診療科、地域医療教育学 講師）
 阪本 直人（総合診療科、地域医療教育学 講師）
 小曽根早知子（総合診療科、地域総合診療医学 講師）
 孫 瑜（地域医療教育学 助教）
 稲葉 崇（総合診療科、地域総合診療医学 助教）
 新田千枝（地域医療教育学 助教）
 河野禎之（人間系障害科学域 助教）
 橋本 恵太郎（地域医療教育学 助教）
 瀬尾恵美子（総合臨床教育センター 病院教授）

7. 教科書・その他の学習リソース

・医療・保健スタッフのための 健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 松本千明著 医歯薬出版 2002年

・医療・保健スタッフのための 健康行動理論 実践編 生活習慣病の予防と治療のために 松本千明著 医歯薬出版 2002年

・ヘルスリテラシー～健康教育の新しいキーワード～ 福田 洋、江口 泰正（編著） 大修館書店 2016年

・格差時代の医療と社会的処方～病院の入り口に立てない人々を支える SDH（健康の社会的決定要因）の視点 武田裕子編集、日本看護協会出版 2021

8. 評価

医療概論Ⅲの単位取得条件：

- ・下記1)～2)の全てに合格していること（一つもD評価がないこと）。
- 1) 医療概論Ⅲ－1 行動科学/地域ヘルスプロモーション
- 2) 医療概論Ⅲ－2 ケア・コロキウム
- ・コースで実施する講義に3分の2以上出席していること

評価に用いる項目、配分など

- ・医療概論Ⅲ－1の成績は、行動科学テスト(50%)、セルフケア支援レポート・地域ヘルスプロモーション各種レポート(50%)を用いて評価する。
- ・行動科学テスト(7月14日)は、テストまでに行う行動科学講義:後述の「10. 講義一覧の講義番号2～6」で扱う内容で、コースで中心となる学習項目を扱う。不合格の場合には、9月以降に再試を行う(後日通知)。体調不良などによる本試欠席の場合には、別途7月中に追試験を実施する(要事前連絡, 日程は後日通知)。
- ・総合成績Dの場合には、翌年度に不合格のコースのみ受講する(今年度の医療概論Ⅲ－1またはⅢ－2の成績は年度をこえて持ち越し可)
- ・セルフケア支援レポートの評価は、セルフケア支援を実施してうまくいったかだけでなく、下記の観点から評価する。
- 1) インストラクションに沿った記載か
- 2) 対象者にとって妥当で有意義な目的を設定した実施計画・実践であったか
- 3) 講義と演習で学んだことを生かし、対象者の状況などを分析しそれにそった計画をたて実施したか
- 4) 実施結果を振り返り、考察したか(よかった点と改善点をあげるなど)

参考

- ・ケア・コロキウムの成績は、コアタイムについてのチューターによる観察評価(50%)とレポート(50%)により評価する。
- ・医療概論Ⅲ総合成績は、講義時間数に基づき重み付けを行い合算して算出する。

＊留意事項

- ・各種演習の無断欠席および、各レポートの提出がなかった場合はD評価とする(正当な理由がなくレポートの提出が遅れた場合には、行動科学の成績は減点される。)
- ・体調などにより**演習・実習**を欠席する場合は、事前に教務を通して連絡する(manaba コースニュースなどで担当教員から振り替え課題について連絡がある)

9. 対応する「医学教育モデル・コアカリキュラム」の項目とそれ以外の学習項目

B-1 社会と医学・医療のうち、B-1-5 生活習慣とリスク、B-1-6 社会環境・環境と健康、B-1-7 地域医療・地域保健、B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度
C-5 人の行動と心理に含まれる項目

10. 講義一覧

行動科学入門に関する講義・演習 一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	医療概論Ⅲオリエンテーション	堀内 明由美	ライフサイクル、セルフケア、行動変容
2	行動科学と行動変容	阪本 直人	行動科学、行動変容ステージモデル、健康行動理論
3	ヘルスリテラシー	稲葉 崇	ヘルスリテラシー、健康信念、ヘルスコミュニケーション

4	ライフサイクルとセルフケア支援	小曽根早知子	ライフステージ、ライフスタイル、セルフケア支援、健康の社会決定要因
5	社会と健康格差	市川 政雄	健康格差社会、健康の社会決定要因、貧困と健康、ソーシャルキャピタル
6	多様な個人～ジェンダー／セクシュアリティ	河野禎之（人間系障害科学域/ヒューマンエンパワーメント推進局）	多様性、個人差、SOGI/LGBT、アンコンシャスバイアス
7	医師のワークライフバランス	瀬尾 恵美子	キャリア、ワークライフバランス
8	セルフケア支援演習1（演習）	堀内 明由美	ヘルスビリーフモデル、ヘルスコミュニケーション、行動変容
9	セルフケア支援演習2（演習）	中村友香（人文社会学系）/照山絢子（図書館情報メディア系）/堀内明由美	社会環境、価値観、行動規範、文化人類学
10	地域ヘルスプロモーション講義1（対面）	小室 秀子（総合健康企画ヴィヴァン）	栄養指導、運動指導、フレイル予防
11	地域ヘルスプロモーション講義2（対面）	川田 尚吾（iKIGAI）	ヘルスプロモーション、健康の概念、ポジティブヘルス
12	地域ヘルスプロモーション講義3（対面） コミュニティナースの活動	諏訪 彩華、 阪本 直人	ケアを暮らしの動線のなかへ、持続可能な地域活動、私の情熱と地域のニーズが重なるところ
13 - 14	地域ヘルスプロモーション講義シリーズ1～2 （オンデマンド講義視聴）	地域ヘルスプロモーションテーマ1～6 担当講師＊	アルコール、生活習慣病予防、行動変容、運動指導、幼児の口腔機能育成、栄養指導、メンタルヘルス、ピアサポート

＊地域ヘルスプロモーション 学習コースのテーマ・講師一覧（敬称略）

テーマ1【生活習慣病予防～糖尿病・循環器病～】橋本 恵太郎先生（筑波大学医学医療系地域総合診療医学）

テーマ2【運動指導による健康づくり～子どもから大人まで～】中川 将吾先生（つくば公園前ファミリークリニック）

テーマ3【思春期・青年期 こころの健康指導】杉原 正子先生（まさこ心のクリニック自由が丘）

テーマ4【幼児の口腔機能育成】大久保 純子先生（大久保歯科医院）

テーマ5【アルコール指導】吉本 尚先生（筑波大学医学医療系地域総合診療医学）

11. 時間割

WEB 時間割 <https://www.md.tsukuba.ac.jp/mdtt/> を参照

**M3 カリキュラム
医療概論Ⅲ「行動科学」他
シラバス**

2023 年度入学 第 50 回生
2024 年度 編入学 24 回生

2025 年発行
〒305-8575
筑波大学 医学群
